

2017	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	推薦者
<p>8月</p>  <p>柳原病院看護部</p>	<p>A・M</p>	<p>I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特に素晴らしいBEST Ofキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は様々な制限に対して能動的に働きかけ、変わることが出来る存在であるととらえている ②看護の視点・優点：患者の立場に立つ：患者の状況や訴えなど事実をありのままにとらえ、想像力を働かせて理解し、共感する II. 患者が落ち着かない時、おさえつけたりすることで、よけいに興奮し落ち着かなくなってしまうが患者さんは、通常の生活空間に触れ、安心されることができた。看護師の手が優しい気持ちをもって接することが患者にとっての不安を取り除くことが出来た事例 BEST Of キラリ</p>	<p>肺炎で入院されたT氏。入院前は認知症はなく電車に乗って入院中の妻の見舞いについていた。転院時より、CV・Ba挿入され自己抜去のリスクが高いと体幹抑制・つなぎ着用されていた。徐々にADLもアップしたが、認知症の進行が著しく徘徊・放尿・隣人のお茶を飲んでしまっていた。日中は比較的穏やかで、会話可能であるが、夜間は全く指示が入らなかった。実践した看護実践：夜勤の際に徘徊した時には、5階と一緒に夜景を見に行ったり、「お腹がすいた、コーヒーが飲みたい」と話された時には、紅茶を入れ、チョコレートと一緒に食べた。すると「うまいね～家でも娘がよく入れてくれるんだよ。娘が紅茶がすきだね。」と話され、お腹が満たされたのか入眠された。</p>	<p>毎回夜勤のたびに対応に悩まされ、夜勤明けの看護師から送りを聞くと「大変だったんだな」と思っていた。中には、対応しきれずに体幹ベルトをやむを得ず使用し余計に興奮されていた夜もあった。それぞれ、十人十色の対応であったが、患者さんの生活背景をさぐり、少しでも患者さんが何を求めているのかを把握できたらと思った。毎回、うまくいくわけではないが、次はこうしてみようと思うことで、その患者さんの対応が大変だとは思わなくなった。</p>	
<p>9月</p>  <p>柳原病院看護部</p>	<p>T・K</p>	<p>I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特に素晴らしいBEST Ofキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は、様々な制限に対して能動的に働きかけ変わることが出来る存在と捉えている。患者観：患者個人として尊重され生きる権利が保障される存在であると捉えた。 ②看護の視点・優点：患者の要求から出発する：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けてとりくむ。患者とともにたたかう：患者の生命力を高め、健康回復のために課題を共有し克服できるよう支援する。 II. 患者さんに寄り添うことで、夜間せん妄を予防し、患者さんから「安心します」と話された事例 BEST Of キラリ</p>	<p>低酸素血症で施設入所していたN氏。胸椎圧迫骨折で他院退院後、低酸素血漿となり、当院入院となった。他院入院中に夜間せん妄が見られ、早期退院となっており、家族も夜間せん妄のことを気にしていた。実践した看護実践：本人の希望があり、夜間覚醒していた時には、ラウンド時に声をかけや、時間を伝えた。夜間娘に電話をして話してもらった。夜勤時のこれらの対応により、夜間せん妄が朝まで出現しなかった。次の夜勤の時に患者から「安心します。」と話された。</p>	<p>家族との協力の大切さ。 大事にしたいことは、本人の希望にできるだけ寄り添うにしてあげる。 患者さんとの信頼関係を築くことを大切に、大事にして行きたい。</p>	
<p>10月</p>  <p>柳原病院看護部</p>	<p>A・S</p>	<p>I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特に素晴らしいBEST Ofキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は、様々な制限に対して能動的に働きかけ変わることが出来る存在と捉えている。 ②看護の視点・優点：患者の要求から出発する：患者の要求から出発する：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けて取り組む。総合性・継続性：看護の「継続性」「総合性」を一貫して追及している。 II. 患者との信頼関係を構築するためには、患者さんがおかれている背景や要求を理解し、患者さん自身の要求と患者さん自身が受け入れられるような動作の提案が出来た事例。 BEST Of キラリ</p>	<p>心不全治療後リハビリ・後方病院探しにて当院の入院されたK氏。環境の変化も影響しせん妄症状が強かった。ベッドでの生活ができず床生活であった。もともと、自宅でも和式の生活であった。徐々に環境にもなれ落ち着きが見られた。ADLも床からの規律・立位保持が可能となり問題なく可能。後方探しのため、低床ベッドの生活も可能となった。後方探しのため低床ベッドを導入、床に折り津子となくベッドの生活も可能となった。実践した看護実践：床設定から低床ベッドに変更した後に本人の動揺・不安の抄出が著明となっていたが、本人から「車椅子からベッドの移動の練習がしたい」と希望があり、30分程度で4～5往復連取した後に「何とか大丈夫そう。」と患者から言われた。その後一人で移動できた。</p>	<p>認知症、せん妄だからといって抑制するのではなく、その中で本人が安全に落ち着けるような環境を整える。 納得、受け入れられるような動作の反復や説明は重要だと感じた。また、そうなれるような患者とスタッフ関係作りも重要だと感じた。</p>	

2017	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	推薦者
11月 	S・S	I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特にすばらしくBEST OFキラリに認定しました。 ①患者の見方・捉えかた： 患者観 ：患者は社会的、経済的理由で差別されず、必要な医療を受ける権利があるととらえたか。 ②看護の視点・優点： 総合性・継続性 ：組織内外の様々な職種や施設、期間、団体、個人と連携し、患者を支援している。 患者の要求から出発する ：患者の要求から出発する：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受け止め、その実現に向けて取り組む。 II 院内連携と調整を看護が中心となり、勧め、患者観に寄り添う看護ができた事例。 BEST Of キラリ	3月中旬仕事中に蒸気が両大腿～下腿のⅡ度の熱傷で来院。A病院にDMのため通院中・皮膚科通院となったが、皮膚科以外の日は処置ができないため、当院で処置対応をした。主治医となる医師もいない中で、その都度看護が情報や処置方法を朝共有し、病棟でシャワーをかり、病棟にも協力してもらいながら、処置を継続した。入院を何度か勧めたが、仕事でできないと通院や生活にご本人も苦労した。最終的には、かかりつけの皮膚科より植皮のために大学病院へ、入院となった。 実践した看護実践 ：かかりつけの皮膚科受診日以外は、3/20から4/22の大学病院入院前日まで、外来で情報共有しと病棟連携しながら、処置を対応した。	主治医となる医師が不在の中、看護が連携し対応できた。外来だけでなく入院病棟とも連携し対応できたが、かかりつけに完全移行ができなかったのが残念であった。皮膚科受診や家から通いやすい所、基礎疾患との兼ね合いから1つの病院で受診できるように患者の誘導や紹介状の作成など看護主導で動いた事例であった。 院内連携と調整	
12月 	M・K	I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特にすばらしくBEST OFキラリに認定しました。 ①患者の見方・とらえ方： 医療観 ：医療は患者の主体的な参加によって成り立つと認識したか。 ②看護の視点・優点： 患者の立場に立つ ：患者の状況や訴えなどの事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感する。 II. 患者から思いを引き出すための声かけ、コミュニケーションをつねにはかり、患者の表情から患者の要求を感じ、看護実践に活かした事例。 BEST Of キラリ	左乳癌全摘術目的で初めての入院。母は乳癌で術後1ヶ月以上入院後他界している。術前オリエンテーションで1週間くらいの入院期間だと説明したが、ドレーンが抜けずに2週間ほどの入院となった。入院期間が延びたので、何かあったら話して欲しいと声をかけるといつも泣かれていた。髪が長くてかゆいと言われていたので、「洗髪だけでもやりましょうか」と声をかけると表情がよくなり「本当にありがとう」と話された。また、患者から退院時に「こんなにかかって、早く帰れると聞いてたのに。術前オリエンテーションの言葉に期待をしてしまったんだけど、加藤さんがいてくれてよかった」と言ってもらえた。 実践した看護実践 ：患者の表情を読み取り、看護ケアの提案と、患者の気持ちを引き出すような声掛けをした。	術後の経過は人それぞれ違うこと、言葉に気をつけなくてはいけないことを学んだ。 また、乳がんの術後の際には、精神的フォローが必要であると学んだ。⇒ フィンクの危機モデル は危機の過程（衝撃・防御的退行・承認・適応） 気分が晴れるようなケアの実践	
1月 	R・O	I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特にすばらしくBEST OFキラリに認定しました。 ①患者の見方・とらえ方： 人間観 ：人間は社会のありようや周囲の人たちの働きかけの影響を受けてかわることができるかととらえたか。 ②看護の視点・優点： 患者の要求から出発する ：患者の潜在的・顕在的な要求を引き出し、受けとめ、その実現に向けて取り組む。 II. 患者の行動を引き受け、対応したことを家族に伝え、共有したことで、家族・患者に看護実践を認められた事例。 BEST Of キラリ	97歳女性、食欲低下、脱水で入院。短期記憶障害があり、ケアの拒否が強く、見当識障害もあり、入院中であることもわかっていないことが多かった。また、夫は他界され、長女と3女と同居、子ども3人が介護熱心であった。いつも苦痛表情で拒否の多かった患者さんは夜間も眠れずにいましたが、表情は穏やかでニコニコと笑顔で話される様子もあったので、無理に入眠を勧めずナースステーションで過ごした。CWさんと歌を歌い、喜び笑って過ごされた。また、もう一人の患者さんも眠れずにナースステーションにおり、二人で軽快に会話されていた。一緒に過ごした患者さんから1輪の造花を頂き、花の香りを楽しんだりともうれしそうにしていました。ご家族にも見ていただきたいと思い、写真を撮り、どのように過ごされたか一筆添えベッドサイドの写真をおいて置きました。ご家族の反応が気になりましたが、聞けずに退院されました。後日ご家族から、感謝の言葉と最後の写真となったこと、とても良い笑顔と書かれた手紙が来た。	不眠だから、睡眠剤ではなく、無理に休ませる分ではなく、傍らに 寄り添い過ごす ご家族の言葉・患者さんの言葉は 看護師のグリーフケア に繋がる 不安に思ったことは後日でも確認する	

2017	名前	選出理由	事例内容(概要)	事例(一番伝えたいこと)	表彰者
<p style="text-align: center;">2 月</p>  <p style="text-align: center;">柳原病院看護部</p>	<p style="text-align: center;">Y ・ T</p>	<p>I. 民医連のめざす看護の基本となるものからの評価視点である以下の2点が特にすばらしいBEST Ofキラリに認定しました。</p> <p>①患者の見方・捉えかた：人間観：人間は、社会のありようや周囲の穂と立ちの原木賭けの影響を受けて代わることが出来ると捉えた事例。</p> <p>②看護の視点・優点：患者の立場に立つ：患者の状況や訴えなど事実をありのままに捉え、想像力を働かせて理解し、共感している。患者とともにたたかう：患者の生命力を高め、健康回復のために課題を共有し克服できるよう支援する。</p> <p>II. 入院中の患者にも自分の生活があってその生活にできるだけ近づけて帰れるよう、他職種と関っていくことが大切であると感じた事例</p> <p style="text-align: center;">BEST Of キラリ</p>	<p>下痢の精査で入院。既往に心不全あり。入院後心不全が悪化している中、孫の結婚式があり、退院希望した女性。外泊で結婚式に参加することとなった。1年待ちの孫の結婚式だったのでチームで支援したいと話していた。外泊で美容室に行き、整髪する予定であったが、状態もよくなり当日外出となった。前日の夕食前に洗髪をナースが行い、家族は衣装を持参して選んでもらい準備したが、結局参列は出来なかった。その後心不全が更に悪化し永眠された。先日ビデオを家族と見たことを聞き、スタッフ皆で安堵した。</p>	<p>生活の一部に入院生活があって、入院は普段の生活ではある意味得意なことだと学んだが、業務の中でそのことを忘れてしまっていた。長期入院患者も自分の生活があってその生活にできるだけ近づけて帰れるよう、他職種と関っていくこと。</p> <p>せつかく協力し合えるチームなので、皆で退院やその人の目標に向かって進んでいくことが大事。</p>	<div style="text-align: right;">  </div>